

令和3年度総務経済委員会オンライン行政視察報告書

網走市議会文教民生委員会

委員長 松浦 敏司

網走市議会文教民生委員会は令和3年12月21日、「オンライン投票を用いた主権者教育」をテーマにオンライン形式での視察を行いました。

これまで網走市議会で開催してきた地元・高校生との意見交換会において「スマートフォンを用いたオンライン投票の実現」を求める声が毎年寄せられてきたことも受けて企画。茨城県つくば市などでオンライン投票の社会実装を目指した取り組みを進める株式会社 VOTE FOR の代表取締役市ノ澤充氏を講師に開催しました。全国的に投票率が低下傾向にある中、同社はつくば市などと連携し、若年層の政治参画意識や投票意欲を高めることを目的として、スマートフォンを用いたオンライン投票をつくば市内の中高一貫校の生徒会選挙などに社会実験として導入。生徒の活用状況や意識変化を把握したうえで、将来的に公職選挙への応用を検討しようとするプロジェクトについて市ノ澤氏から説明を頂きました。市ノ澤氏は、これまでの実証実験において、生徒たちの投票に対する心理的なハードルが下がり、政治参画意識に変化が見られたことや、立候補者の主張を見極めて投票先を選択する意識の高まりがあったことなどを紹介。また、オンライン投票を実現するにあたり、我が国における法制度、運用面、技術面の各種課題の説明のほか、エストニアやアメリカでの活用事例への言及もありました。また、職員数の減少などから投票所の設置数を絞る自治体も増えており、オンライン投票の導入による投開票に関わる作業の効率化も全国的に喫緊の課題であるとの指摘もありました。

参加した各委員からは「国の制度化を待つと時間がかかるので、まずは地方からオンライン投票の実現を目指すことが必要だ」「オンライン投票の実装は投票率向上の取り組みとして効果があるのではないか」「選挙への関心を高める方法としても大変良い仕組み。選挙管理委員会や教育委員会などで啓発を目的として実験的に取り組むような動きがあっても良い」「選挙の在り方も時代に合わせて変化させていくことが重要」などの所見が出されました。